

～ リエゾン精神看護専門看護師の役割と活動 ～

リエゾン（liaison）の言葉の意味をご存じでしょうか。リエゾンには、「つなぐ、連携する、橋渡しをする」という意味があります。専門看護師（CNS: Certified Nurse Specialist）認定分野の1つに精神看護があり、リエゾン精神看護は、精神看護分野のサブスペシャリティとして位置づけられています。

私は、大学卒業後4年ほど当院の神経精神科病棟に勤務したのち、CNSを目指し大学院に進学しました。入学後すぐに第1子を出産し、大学院時代の2年間は慣れない育児と学業で手一杯の日々でしたが、育休をとってくれた夫の助けもあり何とか修了できました。その後4年間は福岡県で大学教員として教育・研究に携わる機会を得ました。

7年ぶりに当院に戻り、CNSの活動を始めて20年目近くになります。主な活動としては、「看護師のメンタルヘルス支援」、「精神科リエゾンチーム・身体拘束最小化チームでの活動」があります。



リエゾンチームカンファレンス

重症患者のケアを短期間で安全に行うことが求められる現在の医療現場の中で、スタッフの皆さんは本当に日々奮闘しています。2020年からのCOVID-19蔓延による業務量負荷や組織の様々な問題等も重なり、一時は年間500回を超える面談を行った時期もありました。面談した方の約半数は、安全衛生管理室の方や産業医と連携し、受療へのアクセスや復職のための支援をいただいています。

精神科リエゾンチームや身体拘束最小化チームの活動では、精神科医や公認心理師、社会福祉士、作業療法士とともにチームを組み、精神・行動上の問題を抱える一般科入院患者への直接介入と医療者へのコンサルテーションを行っています。患者の傍にいる病棟看護師や主治医、多職種の方々が、患者をよく観察話を聴いてくれており、そういった方々に情報をいただき連携をとりながら、よりよい治療・ケアを検討しています。身体とこころ、患者と家族、患者とスタッフ、スタッフとスタッフなど、それぞれを“つなぎ”、医療チーム全体で患者によりよい医療が提供できるように、またスタッフが心身の健康を保ち、より安心して働ける職場になるように、周りの人たちとつながりながら、ひとつずつ積み重ねていければと思っています。